

社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会 「中京圏小委員会」 ヒアリング資料



第76回国民体育大会

三重とこわか国体

ときめいて人 かがやいて未来 2021



MIE
Once in your lifetime



第21回全国障害者スポーツ大会

三重とこわか大会

ときめいて人 かがやいて未来 2021



令和元年7月1日 三重県知事 鈴木 英敬



①スーパー・メガリージョンの形成に向けて

個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創造

◆首都圏

- ・複数の国際ビジネス拠点を中心に、グローバルな経済都市として強化
- ・情報通信・広告・金融分野等の強みを活かし、全国の商品の価値を磨き世界に発信することで、地方創生と国際競争力向上の相乗効果を発揮

◆中部圏

- ・三大都市圏の中心に位置し、全国最大の交流圏を形成
- ・多様なものづくり産業と、AI、IoT等、デジタル技術分野との融合により、生産性向上と高付加価値化を実現する産業の革新・創造拠点に発展

◆関西圏

- ・医療・ライフサイエンス分野の強化等により、アジアと共に進化する国際ハブ都市圏として発展
- ・圏域間のアクセス向上や広域連携の強化により、西日本全体の対流を促進



スーパー・メガリージョンの形成により実現が望まれる将来の姿

◆三大都市圏

一体化による巨大経済圏の誕生

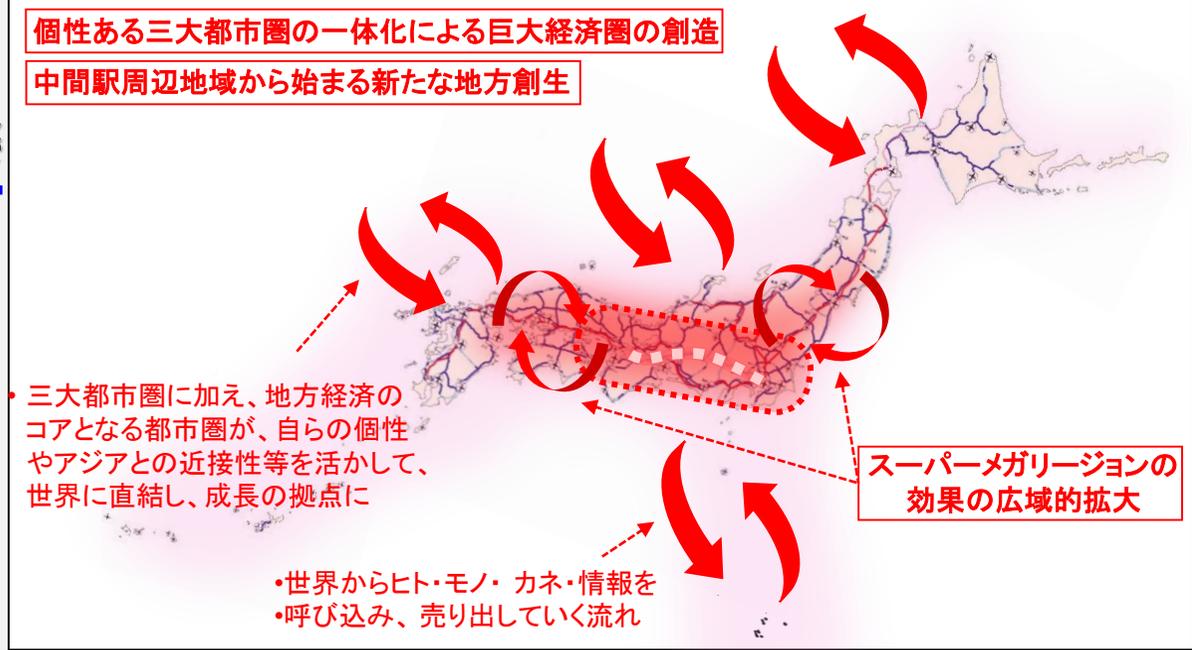
◆中間駅周辺地域

クリエイティビティと地域の魅力の融合による新たな拠点の誕生

スーパー・メガリージョン構想検討会資料より

個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創造

中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生



国内外のヒト・モノ・カネ・情報の活発な対流を湧き起こすため
三重県は、スーパー・メガリージョン効果最大化に向けて
「希望がかない、選ばれる日本・三重」を目指す

②みえ産業振興ビジョン「KUMINAOSHI」による産業創出

平成30年11月に策定した「みえ産業振興ビジョン」では、
「KUMINAOSHI」をキーワードに掲げ、県の産業政策の方向性を提示

めざすべき産業の姿（3つの視点）

1

第4次産業革命
への適応

2

「若者」に魅力ある
しごとの創出

3

「KUMINAOSHI」
による新しい価値の
創出

KUMINAOSHI

みえ産業振興ビジョンでは、「企業活動や地域活性化の取組などにおいて、人材や技術、地域の資源、ビジネスなどのさまざまな要素について、既存のものだけでなく新たなものを積極的に取り込み、それらを組み合わせたり、繋ぎ直したりすることで、イノベーションを起こし新たな価値の創出につなげること」と定義

● **KUMINAOSHIによる産業創出**（みえ産業振興ビジョンの策定 H30.11）
知恵や知識、技術を組み合わせ・繋ぎ直し、共感と協創により、既存価値を超え若者が躍動する新しい三重の産業を創出

高度施設園芸技術



ロボット等自動化技術



AI ビッグデータ

あさい農園
ASAI NURSERY



DENSO

品種開発や高度栽培技術（**浅井農園**）と
ロボット等自動化技術（**デンソー**）を統合

両社の強みを活かし、生産性・収益性を向上

地域雇用の拡大、農業現場における働き方改革

経営コンサルティング会社等を経て
三重にUターン、実家の農園を継ぐ
世界にチャレンジする若手農業者

老舗食堂・商店



老舗食堂「**つびや**」を継承

飲食店経営の厳しい現状を知る。
データ活用による経営の必要性を実感

画像解析AIなどのIoTツールを導入
人員シフトの最適化など生産性向上

北海道出身（前職は通信事業会社）
三重に移住し、妻の実家の食堂を継ぐ
気鋭の経営者



知的対流と地域の魅力を結び付け、新たな産業・価値の創出に貢献

③人と投資を引き付ける観光誘客の取組

■ 戦略的ブランディング 「MIE, Once in Your Lifetime」 (一生に一度は訪れたい三重県)

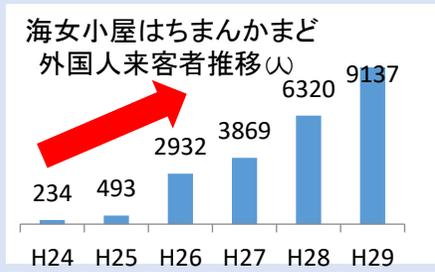
- 伊勢志摩サミットによって高まった知名度
- 世界に誇る三重の資源



■ 地域の文化・伝統等を磨き上げ、新たな価値を創造

■ 海女文化

- ・ 重要無形民俗文化財 (文化庁) 指定
- ・ 日本農業遺産 (農林水産省) 認定
⇒ユネスコ無形文化遺産登録を目指す
- ・ 人気が高まる海女小屋体験



■ 忍者

- ・ 究極のクールジャパンコンテンツ



忍者ツーリズム

日本文化発信イベント「JAPAN MATSURI」ロンドン・トラファルガー広場



■ 自然体験

- ・ 豊かな自然を「体験」という形で活かす
- ・ ジャパンエコトラック「伊勢熊野」エリア等



シーカヤック体験



SUP体験



観光入込客数

4,261万人

過去最多を更新

(現行の推計方法となった平成17年以降)

平成22年比 **19.6%増**



観光消費額

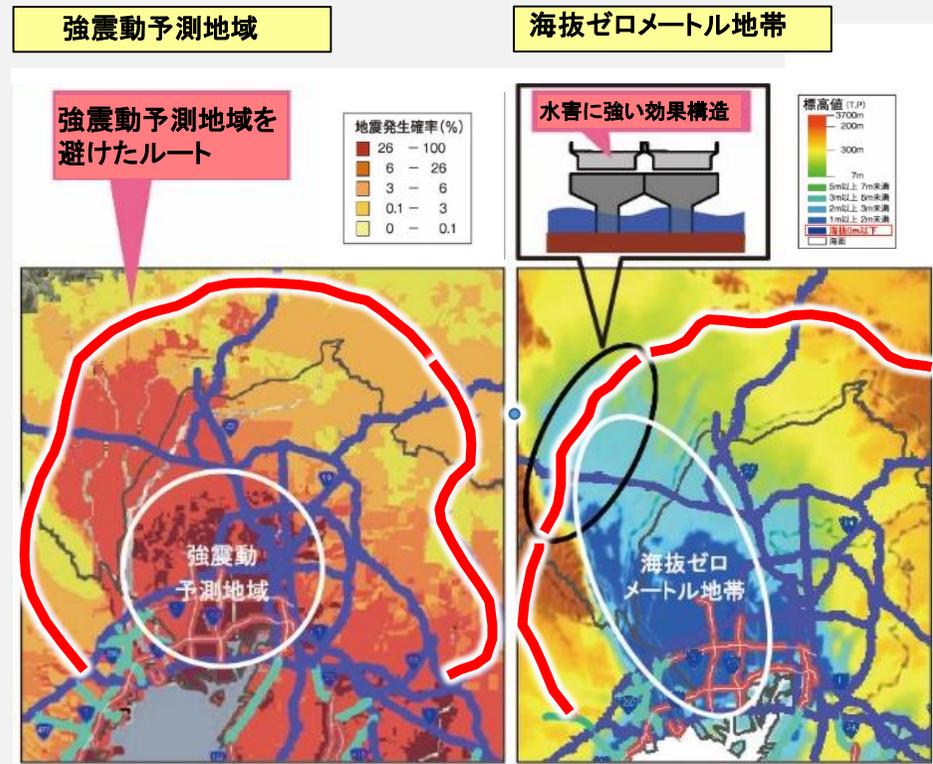
5,338億円

遷宮の平成25年に迫る**5,338億円**

平成22年比 **19.9%増**

④防災、減災、国土強靱化に向けた道路整備

○東海環状道は南海トラフ巨大地震などの大規模災害時に安全かつ円滑な物流を確保



災害支援物資の搬送や、企業のBCP支援に重要な役割を果たす東海環状自動車道の早期全線開通を!

三重県においても国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に的確に対応し、橋梁耐震対策、のり面等の防災対策、道路冠水対策を推進中

●全国高速道路建設協議会 副会長としてミッシングリンクの早期解消等を提言



H31.5.21 二階幹事長に要望

●全国知事会危機管理・防災特別委員会 委員長として提言



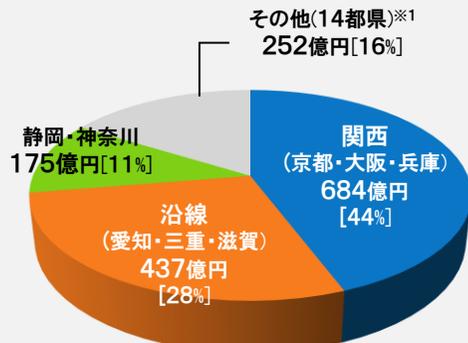
H30.11.19 山本内閣府特命担当大臣に要望

国土強靱化に向け高速道路ネットワークの早期整備が必要

⑤中京圏における道路ネットワークの整備効果

●新名神、東海環状等の開通による効果

首都圏から関西までの範囲において
年間生産額が約1,550億円増加！



※1 その他(14都県)は、茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・奈良・和歌山

新名神高速道路等開通による地域別年間生産増加額の予測

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)「政策研究レポート」(2019年2月)

三重県の観光消費がもたらす経済波及効果は、
年間約480億円

直接効果	約375億円	} 約480億円
1次波及効果	約80億円	
2次波及効果	約30億円	

直接効果	直接もたらす需要増加額 (生産誘発額)
1次波及効果	原材料等の調達によってもたらされる生産誘発額
2次波及効果	雇用者所得がもたらす生産誘発額

出典：(株)百五総合研究所「調査報告書」(2019年3月)

●東海環状地域整備推進協議会シンポジウム

～生産性向上や地方創生の基盤となる東海環状～



基調講演

中京大学経済学部
内田俊宏客員教授

・東海環状の整備により多くのストック効果が発現
・令和7年の大阪・関西万博の開催に先がけて、関西に近い東海環状西回りの全線開通が必要

H31.1.24 名古屋ミッドランドホールで開催

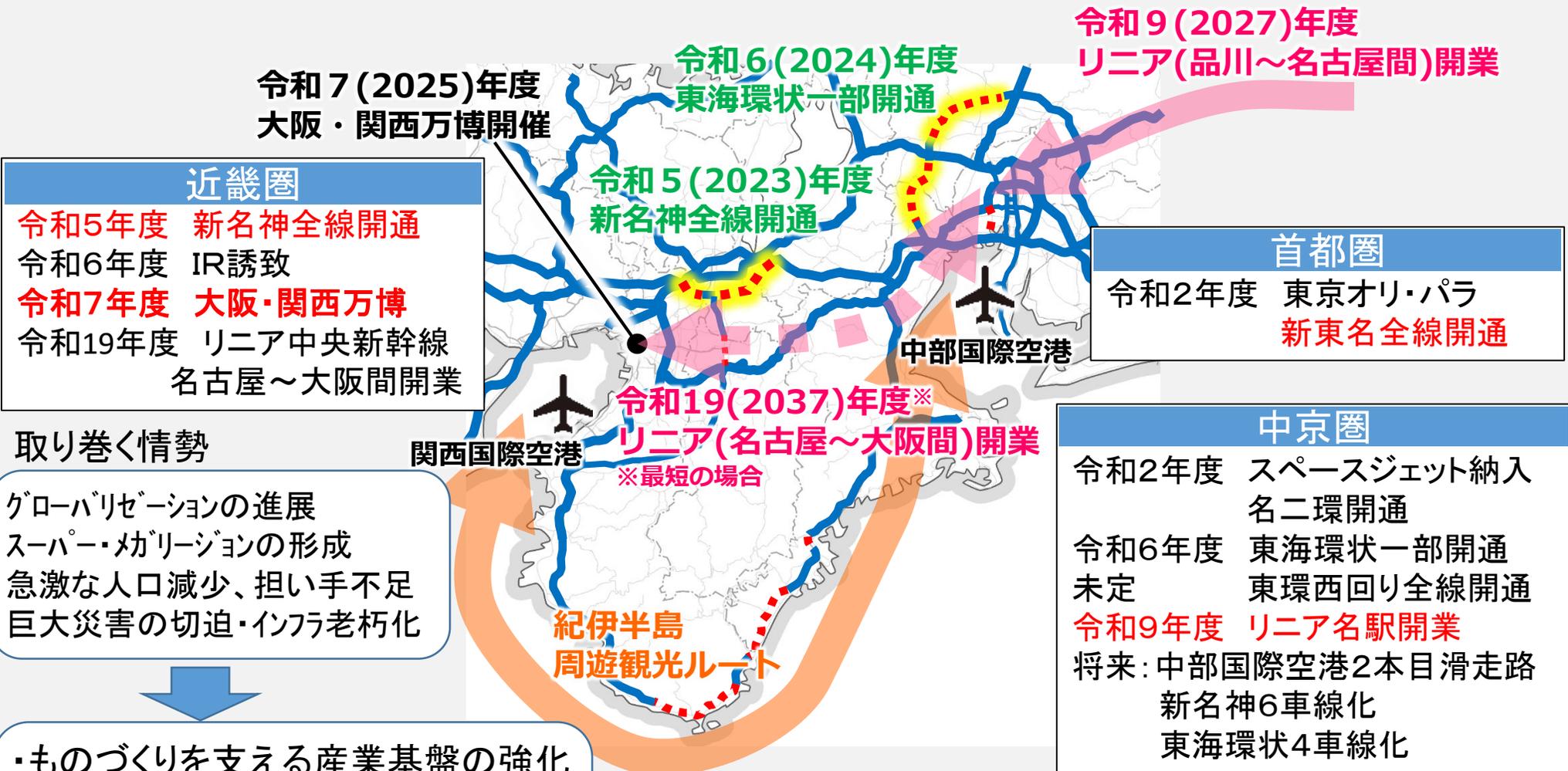


満席の会場 (約400人) で高まる期待

**中京圏における道路ネットワークの整備の発現効果は大きい
⇒早期完成が必要**

⑥中京圏・近畿圏の未来マップ（両圏域に属する三重県）

東京オリンピック・パラリンピック・大阪・関西万博、リニア・新東名・新名神全線開通の効果を最大限波及させるためにも中京圏道路ネットワークの早期完成が必要



取り巻く情勢

グローバル化の進展
スーパー・メガリージョンの形成
急激な人口減少、担い手不足
巨大災害の切迫・インフラ老朽化

- ・ものづくりを支える産業基盤の強化
- ・リニア効果の最大化
- ・対流型国土の推進
- ・国土強靱化

**遅くとも、令和7年 大阪・関西万博までには、
中京圏の高速道路ネットワークを概成させるべき！！**

⑦料金体系見直しについて

○料金体系の見直し状況(首都圏:H28.4導入 近畿圏:H29.6導入)

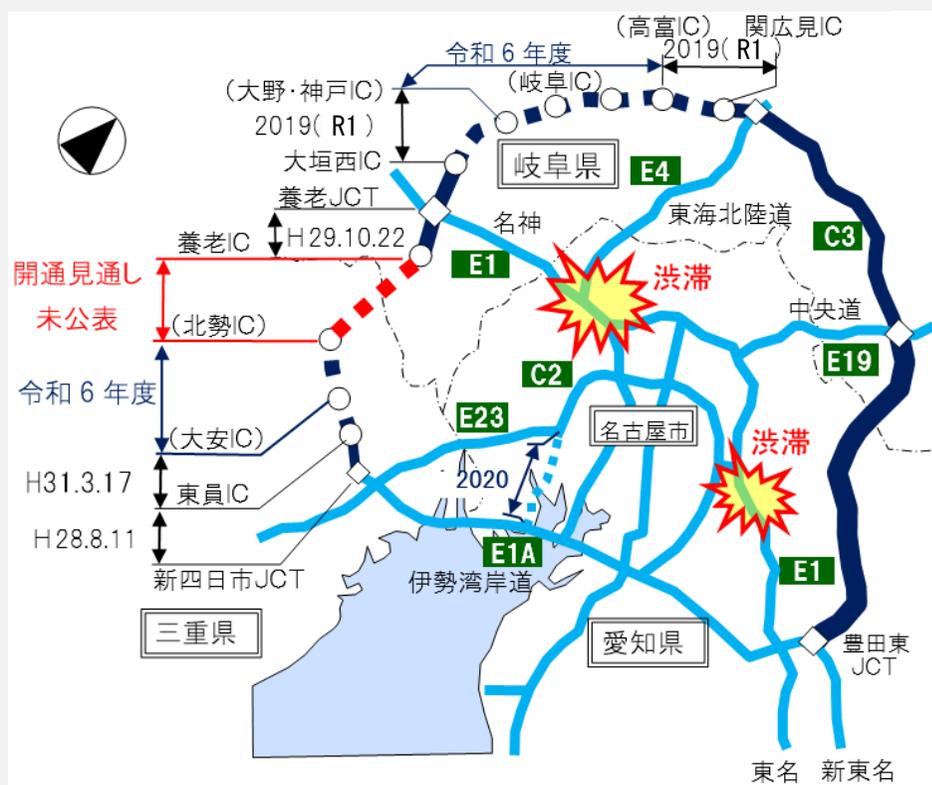
首都圏:整備重視から利用者重視の料金体系を導入、起終点を基本とした継ぎ目のない料金制度とすることにより都心部から環状道路への利用を促進

⇒都心部の通過交通が1割減 環状道路に交通が転換し、圏央道の利用が促進

近畿圏:料金水準を揃えるとともに、未事業化区間の新規事業化などネットワーク整備に必要な財源確保につなげる料金体系を導入

⇒ミッシングリンクとなっていた大阪湾岸道路西伸部、淀川左岸延伸部が新規事業化

○中京圏の高速道路ネットワーク



○中京圏の高速道路ネットワークの課題

- ・路線により料金体系が異なるため、ネットワーク活用の選択肢を狭めている
- ・既存の高速道路ストックに渋滞箇所があり迂回する環状道路ネットワークが必要不可欠
- ・東海環状は全線で事業化されているものの、整備の見通しがたっていない(財源の確保が必要)



○中京圏の高速道路を賢く使うための取組

- ・環状道路の迂回機能を促進し、利用者が使いやすい合理的な料金体系の導入が必要
- ・東海環状などの必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保が必要

⑧料金体系見直しに率先して取り組んだ三重県

○三県一市要望活動（愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市）

平成30年3月15日 二階幹事長
野上官房副長官
平成30年4月17日 うへの財務副大臣

○全国高速道路建設協議会特別要望（副会長 三重県知事）

平成30年5月29日 菅官房長官
平成30年11月19日 麻生財務大臣
令和元年5月21日 二階幹事長、加藤総務会長、岸田政調会長
石井国土交通大臣
うへの財務副大臣

○三重県の料金体系見直し要望

平成29年春	国への政策提言活動	石井国土交通大臣他
平成29年秋	国への政策提言活動	石井国土交通大臣他
平成30年春	国への政策提言活動	石井国土交通大臣他
平成30年秋	国への政策提言活動	石井国土交通大臣他
令和元年春	国への政策提言活動	石井国土交通大臣他

○要望要旨

中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、早期に中京圏の高速道路料金の見直しを進めること。

三県一市料金体系要望



H30.3.15 二階幹事長要望

全高速特別要望



H30.5.29 菅官房長官要望

全高速特別要望



H30.11.19 麻生財務大臣要望

⑨三重県の道路ネットワークの概況

○三重県の高速道路ネットワーク



ネクスコ中日本管内渋滞ワースト10(平成28年度)

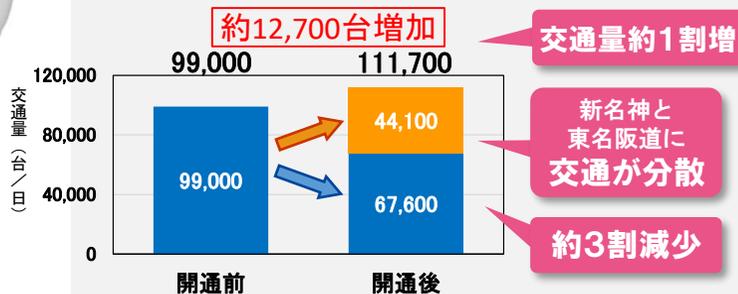
順位	回数	路線	方向	区間
1	1083	名神 東海北陸	上り	一宮～一宮JCT 一宮JCT～一宮西
2	845	中央道	上り	高井戸～調布
3	523	圏央道	上り	海老名JCT～海老名
4	463	東名阪	上り	四日市～鈴鹿
5	461	東名	上り	横浜町田～海老名JCT
6	439	東名	上り	東京～東名川崎
7	396	東名阪	下り	四日市～鈴鹿
8	342	東名	上り	東名三好～日進JCT
9	270	東名阪	上り	鈴鹿～亀山JCT
10	223	東名	下り	横浜町田～海老名JCT

東名阪の渋滞は、三重県経済の発展に大きな支障となっていた

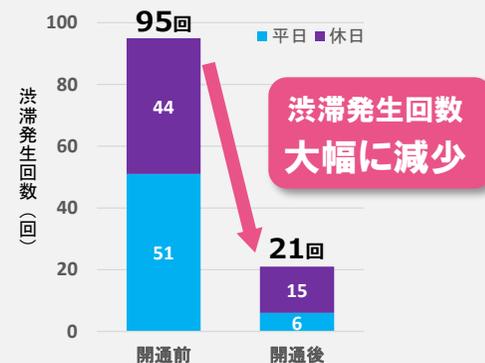
平成31年3月17日

- 新名神三重県区間全線開通
- 東海環状(大安IC～東員IC)開通

新名神・東名阪道の交通量変化



東名阪道の交通集中による渋滞発生回数(四日市JCT～亀山JCT)



新名神開通により 渋滞が大幅に減少

三重県内で残る主要な高速道路ネットワークは、「東海環状自動車道」と「近畿自動車道紀勢線」

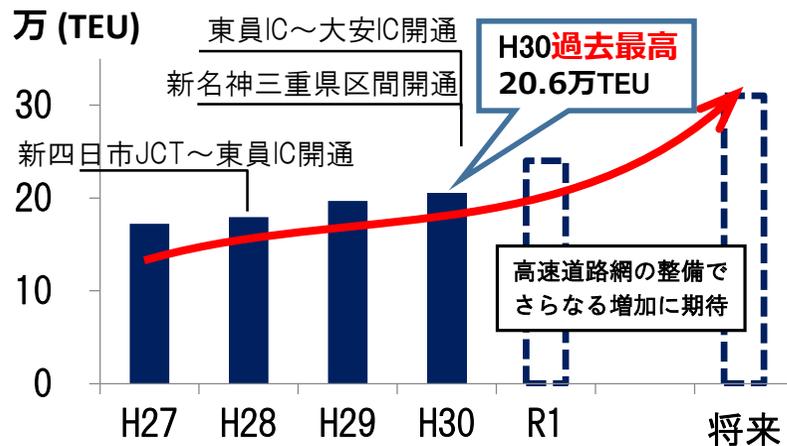
⑩東海環状自動車道の早期整備

新名神高速道路の県内全区間と東海環状自動車道の東員IC～大安ICの開通により、**四日市港の利用拡大等の効果が期待！**

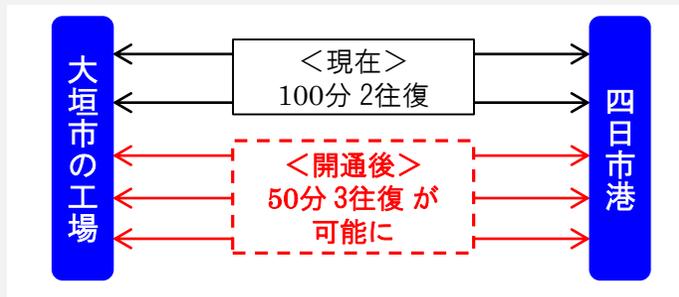


四日市港の利用拡大や物流効率化

■ 四日市港の外資コンテナ取扱個数が増加



■ トラック運搬可能回数が増加



四日市港の物流が効率化

東海環状自動車道の早期整備のため、財源確保が必要

⑪三重県内高規格幹線道路整備の現状

○三重県北勢・中勢地域の道路網図



○三重県内の企業の声

○自動車部品製造 A社
 ・県内製造拠点から四日市港や名古屋港への輸送において、**渋滞があり、製品輸送の効率が悪い**
 ・人手不足の中、渋滞が解消され、輸送回数が増加すれば、**物流効率化に大きく寄与する**



○バス事業 B社
 ・域内交通と通過交通が混在し渋滞が発生しており、**路線バス運行において定時性が確保できず、結果、客離れにつながっている**



三重県内における幹線道路網の現状

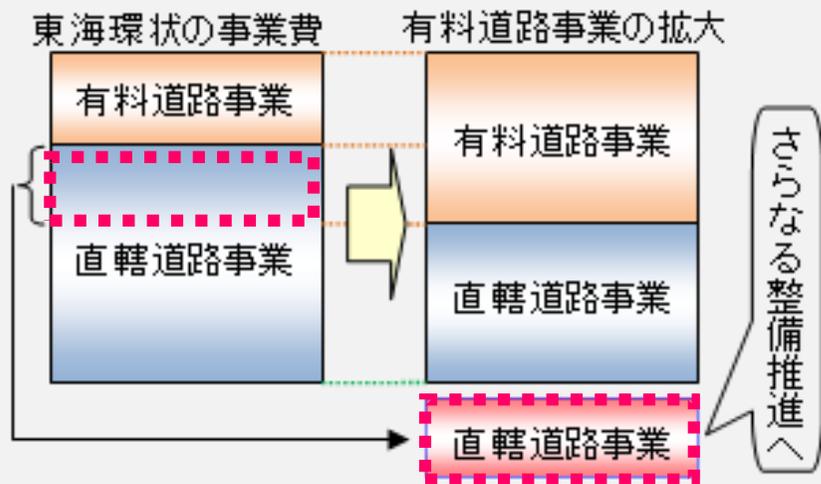
- 平成31年3月17日開通
- ・新名神高速道路 新四日市JCT～亀山西JCT
 - ・東海環状自動車道 東員IC～大安IC

新名神等の高速道路整備が進むものの、一方で、**県内幹線道路網整備の見通しが立っていない**

中京圏の高速道路ネットワーク整備のスピードアップとともに、高速道路網と接続する**三重県内幹線道路の整備のスピードアップも必要**

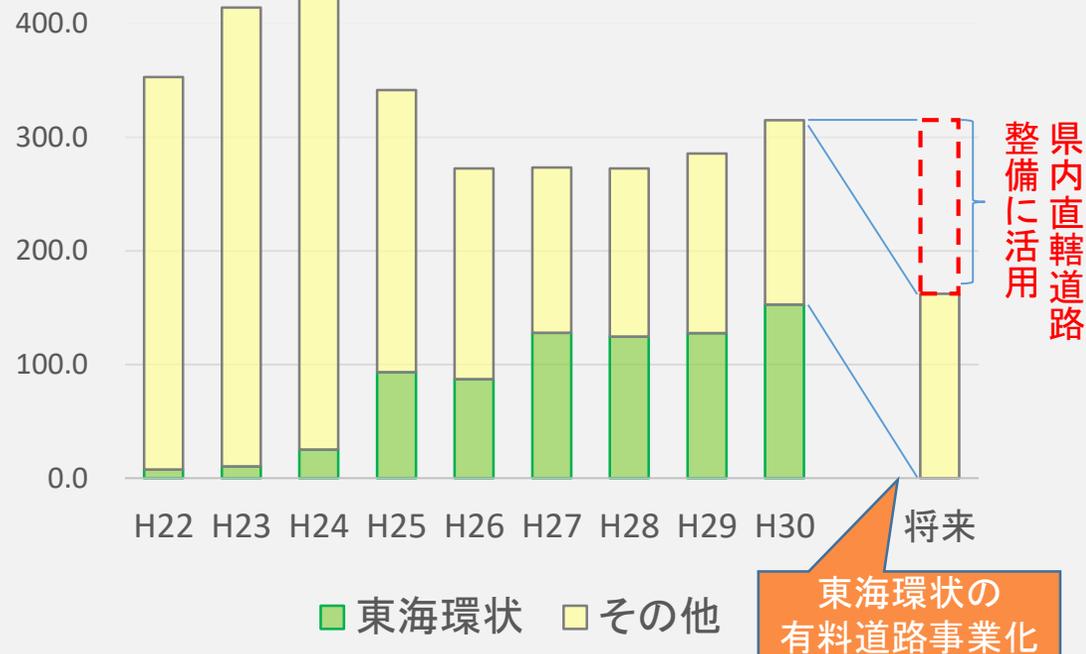
⑫三重県内高規格幹線道路整備の提案

○直轄道路事業の推進



(億円)
500.0

直轄道路事業費(改築)の推移



早期整備を期待する路線

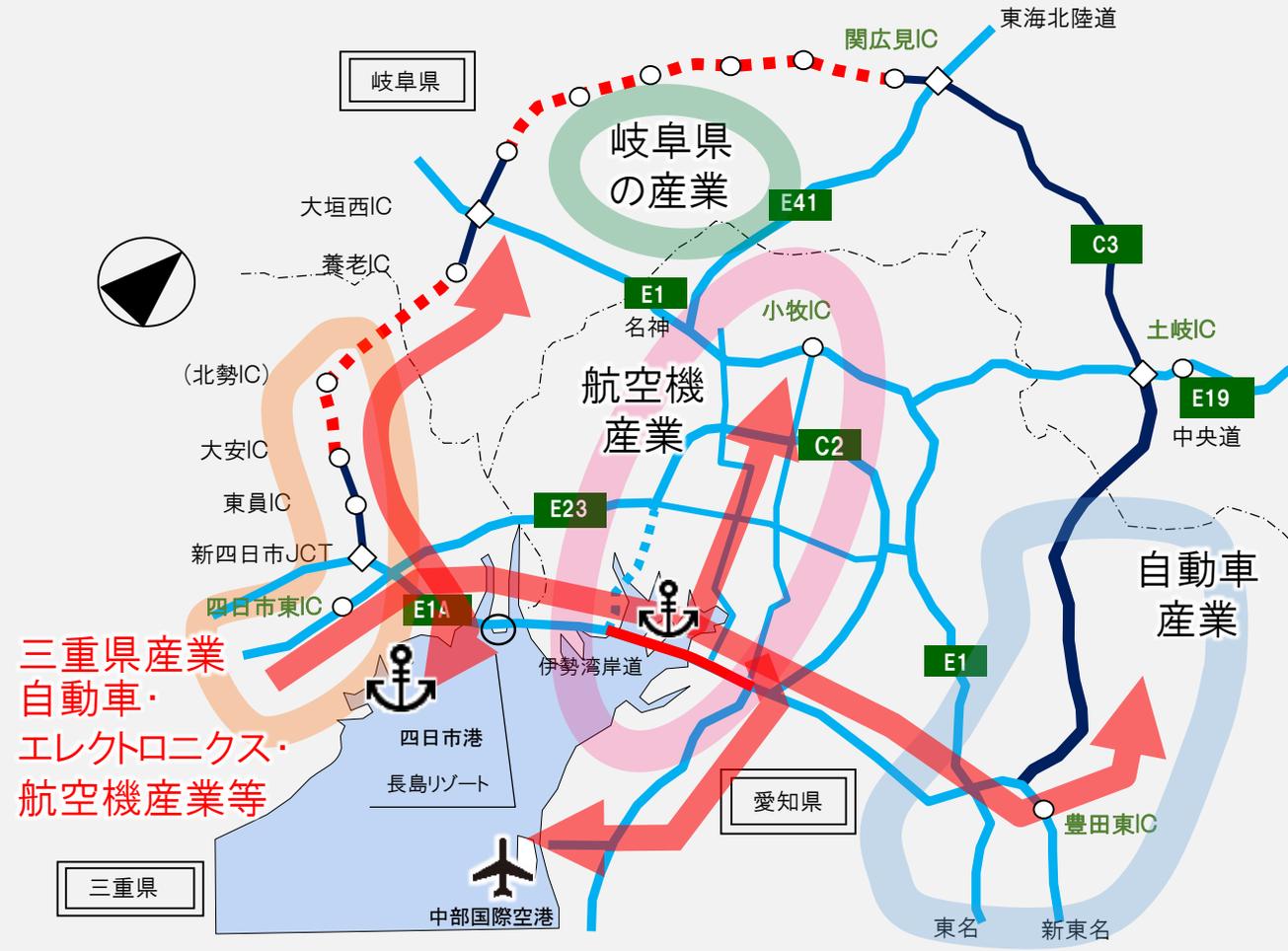
鈴鹿四日市道路(未事業化区間)、北勢バイパス
中勢バイパス、近畿自動車道紀勢線、桑名東部
拡幅、松阪多気バイパス、鈴鹿亀山道路、名神
名阪連絡道路

- 東海環状は直轄事業費の約5割(H30)を占める
- 有料道路事業の拡大により直轄事業費を軽減
- 軽減された直轄事業費を活用し、県内道路の整備を推進

**有料道路事業の事業費の拡大により生まれた財源を活用し、
三重県内の直轄道路事業のさらなる整備推進をお願いする**

⑬中京圏・三重県の産業競争力強化に向けた提案

○中京圏の製造拠点等と県内産業のつながり



- ・自動車部品の三河方面への輸送
- ・航空機産業の製造拠点への輸送
- ・エレクトロニクス製品(フラッシュメモリ等)の海外輸出のための中部国際空港へのアクセス

伊勢湾岸道を通るルートは産業における影響が大きい

- ・東海環状沿いに、自動車関連、航空機関連の企業が立地
- ・東海環状の料金(34.0円/km)は、東名、名神等(24.6円/km)に比べ割高

東海環状道沿線企業への配慮が必要

三重県産業
自動車・
エレクトロニクス・
航空機産業等

中京圏のものづくりの競争力強化のため、伊勢湾岸道を通るルート、東海環状道の料金設定への配慮や、大口ユーザー向けの支援制度等の創設をお願いします

⑭まとめ

- 中京圏の高速道路ネットワークを賢く使う取組を進めるとともに、料金体系を見直すことにより**必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保を行うこと**
- 三重県の活性化に欠かせない**東海環状自動車道の早期整備を行うこと**
- 有料道路事業の拡大により生まれる直轄財源を活用し、**三重県内の幹線道路の早期整備を行うこと**
- 中京圏のものづくりの競争力強化のため、**伊勢湾岸を通るルート、東海環状道の料金設定への配慮や、大口ユーザー向けの支援制度等の創設を行うこと**